

消防指令システム等の相互接続に関する研究会（7回） 議事要旨

- 1 日時
平成31年2月8日（金） 9時59分から11時33分まで
- 2 場所
三菱総合研究所大会議室 A, B
- 3 出席者（敬称略）
 - (1) 構成員
藤井座長（電気通信大学）、石橋座長代理（電気通信大学）、稲継構成員（全国消防長会）、井上構成員（（一社）九州テレコム振興センター）、岡井構成員（日本電気㈱）、岡本構成員（駿東伊豆消防本部）、喜島構成員（徳島中央広域連合消防本部）、木村構成員代理（富士通㈱）、小林構成員（長野市消防局）、杉村構成員（さいたま市消防局）、高木構成員代理（㈱日立製作所）、高橋構成員（京都市消防局）、日向野構成員（㈱日立国際電気）、前田構成員（（一社）情報通信技術委員会）、松波構成員（日本無線㈱）、松本構成員（沖電気工業㈱）、宮本構成員（神戸市消防局）、柳田構成員（東京消防庁）、山根構成員（㈱富士通ゼネラル）
 - (2) 報告者
蔵屋（㈱建設技術研究所）
 - (3) 消防庁防災情報室
田中防災情報室長、阿部課長補佐、川畑係長、足立総務事務官、田口総務事務官
 - (4) 支援業者
㈱三菱総合研究所
- 4 議事
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 前回会合の議事概要について
資料7-1に基づき、第6回会合の議事概要（案）について事務局から説明があった。
 - イ T T Cにおける検討状況及び相互接続試験の実施結果について
資料7-2-1から資料7-2-5に基づき、T T Cにおける共通インターフェース仕様の検討状況について木村構成員代理（富士通）から、相互接続試験の実施結果について蔵屋様（建設技術研究所）から、共通インターフェース仕様の公開範囲について事務局から説明があった後、以下の通り質疑応答が行われた。

構成員：共通インターフェース仕様の公開におけるセキュリティ上のリスクは少ないという表現は、どのような意味であるか。
事務局：共通インターフェース仕様は無線回線制御装置と指令制御装置の間のインターフェースであり、両装置は同一通信機械室に設置されているか遠隔地に設置されている場合でも閉域網や暗号化された回線で接続されていることが前提であるため、リスクはないと考えている。しかし、全ての消防本部が適切な通信機械室や回線を適切に管理しているかまでは把握できないため、リスクが全くないとは言い切れない。
構成員：共通インターフェース仕様を公開した場合、消防本部にはどのようなメリットがあるか。
事務局：本研究会の趣旨を踏まえ、基本的には共通インターフェース仕様は公開したい

と考えている。共通インターフェース仕様を公開することで調達の競争性を担保し、各消防本部の合理的な調達に資するものと考えている。

構成員：共通インターフェース仕様の検討に係る今後のスケジュールはどのように考えているか。

構成員：各社の意見等を集約すると、来年度末に完成させることが目標である。

事務局：本研究会は今年度で終了となるが、共通インターフェース仕様の検討については引き続きTTCにて実施することになる。

構成員：共通インターフェース仕様に記載されているセキュリティのリスクについて、第三者の意見を募ることは考えているか。また、共通インターフェース仕様が開示されることを前提としたセキュリティ措置について、まとめる必要があるのではないか。

事務局：第三者の意見を募る予定はないが、各メーカーが技術的な検討を行った上で通信の専門家である座長及び座長代理に確認いただいている。報告書をまとめる際には、共通インターフェース仕様の公開にあたり、前提事項を遵守する必要がある旨を記載する方向で検討する。

ウ 消防本部におけるシステム発注に関する調査の結果について

資料7-3に基づき、消防本部におけるシステム発注に関する調査の結果について事務局から説明があった。

エ 事例収集方法について

資料7-4に基づき、事例収集方法について事務局から説明があった後、以下のとおり報告が行われた。

構成員：全国の消防本部の事例収集及び情報共有について、全国消防長会が保有するシステムを活用して実施可能であるか調整を行っている。

オ 研究会報告書（素案）について

資料7-5に基づき、研究会報告書の素案について事務局から説明があった後、以下のとおり質疑応答が行われた。

構成員：消防本部の利用シーンを鑑みると、ガイドラインは報告書とは別資料として公開した方が良いのではないか。

事務局：本研究会の検討経緯も踏まえてガイドラインが参照されることを想定し、報告書の中にガイドラインを含めることを考えていたが、周知・配布または消防庁のホームページで公開する際に、ガイドラインを別資料として取り扱うことも検討する。

カ 意見交換

構成員：Net 119 緊急通報システム調達仕様書（例）は、「119 番通報の多様化に関する検討会報告書」に含まれた形で公表されているが、市長部局等への説明時には調達仕様書（例）やガイドラインは報告書と別資料として展開された方が利用しやすいという印象がある。

事務局：報告書の形式については各研究会の目的に照らして決定されていると理解している。本研究会の報告書とガイドラインについては、全国の消防本部が利用しやすい形で公表するよう検討する。

キ その他

事務局より、次回の会合は3月の開催を予定している旨の説明が行われた。

(3) 閉会

以上